

### Ⅲ 研究の実際

#### 1 郷土愛を育む学習活動

##### (1) 地域素材(人・自然・こと・もの)やICTを生かした学習活動

研究主題に掲げた「ふるさとに夢や誇りをもって学び合う」ために、生活科や総合的な学習の時間の学習活動に、弓削ならではの歴史や文化、自然等、ふるさとから学ぶ体験活動を取り入れ、充実させることで、ふるさとのよさを実感できる学習を進めている。体験活動では、保護者や地域の方々の協力をいただきながら、人と人との関わりを大切に、地域の方とのコミュニケーションを楽しんだり、友達と伝え合ったり、他への発信の方法を工夫したりしながら、学びを広げたり、深めたりしている。ふるさとで暮らす多くの人、自然、こと・もの等と関わり合うことを通して、ふるさとへの愛情を育むとともに、知的好奇心を高め、学ぶ楽しさや、成就感、自己有用感を感じながら、夢を現実にする力をもった児童の育成を進めている。

《発達段階に応じたふるさと学習の広がり》

	低学年	中学年	高学年
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人や自然が好きになる体験活動をする。</li> <li>・ 友達や地域の人に見付けたことや思ったことなどを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な立場で活躍する人、地域の特産物を知る。</li> <li>・ 分かったことや気付いたことなどを身近な人に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決を通して、地域のよさや課題に気付く。</li> <li>・ 地域のためにできることを考え実践する。</li> </ul>
目指す児童の意識の高まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ○○さんは、すごいな。わたしも、……をやってみよう。</li> <li>・ 褒められてうれしいな。次は、……をしてみたいな。</li> <li>・ 分かってくれてよかった。もっと言いたいな。</li> <li>・ 地域的人是優しいな。もっと話したいな。</li> <li>・ 自然は楽しいな。もっと遊びたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域には達人がたくさんいた。地域的人是すごいな。</li> <li>・ 達人のように○○な人になりたいな。</li> <li>・ 弓削の海や山には宝物がたくさんあったな。</li> <li>・ したことを家族や友達に自慢したいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のために自分にはできることは何かないかな。</li> <li>・ 地域のよさを多くの人に知ってほしい。そのために、分かりやすく発信する方法はないかな。</li> <li>・ もっと……について調べたり考えたりしたいな。</li> </ul>



《目指す児童像》

- 主体的に学びを楽しみ、自分の思いを伝えようとする児童を育てる。
- 相手に伝わる喜びを味わい、周りの人から認められることで、自己肯定感や自己有用感を高める。

## ア 1年生「なつをみつけよう」での実践（生活科）

学校の周辺に自由に遊ぶことができる山や海があることを生かし、1年生は生活科の学習で、自然に親しむ活動を多く設定している。

5月には、学校に隣接している「まんじゅう山（伊勢山）」に登り、初夏の山の自然を楽しんだ。「まんじゅう山」には、昭和57年、当時の教職員や保護者の力によって作られたアスレチック・トリムコースがあり、現在も本校児童にとって、自然に親しみながら運動を楽しむことのできる人気の施設である。1年生は、まんじゅう山の自然の中に入り、木に登ったり、いろいろな形や色の葉を見て楽しんだりした。また、木やその周りの草むらでは、小さな昆虫を捕まえたり、草花の様子を観察したりして、春先の自然との違いを見つけた。



【まんじゅう山で、初夏の自然を感じる探検活動】

また、地域の方の好意により、田植え前の田んぼで遊ぶ機会をもった。田んぼに入った経験がない児童は、田んぼでの泥遊びに不安を感じていたが、田んぼに着くと、泥投げや水掛けをしたり、オタマジャクシを取ったりと、思い思いの遊びを楽しんでいた。

7月には、学校のすぐ側の海に行き、貝殻や小石を集めたり、いろいろな海藻の色や形を比べたりして楽しんだ。膝まで水に浸かり、海水の温かさを感じながら楽しい時間を過ごした。



【田植え前の田んぼで泥遊び】



【海岸での夏探し】

体験活動後の振り返りでは、したことや見つけた物などを嬉しそう発表した。その友達の発表を聞いて、「わたしも……を見つけた」という発言が次々に続き、「次は、……をしてみたい」などと、やってみたいことへと思いが広がっている。

#### 体験後の児童の感想

- ・〇〇ちゃんに作り方を教えてもらって、シロツメクサの指輪を作ったよ。
- ・いろんな形の葉っぱを見つけたよ。〇〇君と滑り台で滑らせて競争したよ。
- ・田んぼに入ると、にゆるにゆるしていたよ。お友達と泥投げをしたよ。
- ・おたまじゃくしをすくったよ。アメンボもいたよ。かわいかったよ。
- ・木に登ったよ。木から飛び降りたらしりもちをついて楽しかったよ。
- ・最初は、ターザンロープが怖かったけど、友達がしているのを見たら勇気が出たよ。やってみたら、楽しかったから何回もしたよ。

1年生は、季節によって少しずつ様子を変えている自然を、見たり、聞いたり、触れたりした。その素直な思いを教師や友達に伝えたり、感想文に書いたりしながら、体験を通して感じた思いを共有しながら深めていった。

身近な場所で友達と一緒に体験した活動を通してもらった思いを、友達と共有することによって、関わることのよさや地域のよさを感じることができていると考える。

#### イ 2年生「もっとなかよしまちたんけん」での実践（生活科）

2年生は、地域で活動しているいろいろな人に出会う体験を通して、その人たちの活動に対する思いやふるさとに対する思いについて、学んだことを自分なりにまとめ、伝え合うことで、地域の人やふるさとに対する自分の思いを広げ深める学習を設定している。

1学期は、弓削島内にある施設や職場をいくつか訪ね、そこで働いている人にインタビューをして、仕事や地域への思いや願いを伺った。



【島内にあるいろいろな施設や職場を訪問】

インタビューを終えた2年生は、その人の取組をもっと詳しく知りたい、ふるさとに対する思いをもっと知りたいという感想をもった。そこで、2学期には、いくつか

のグループに分かれ、もっと知りたいことを聞くための体験活動を行った。

2回目の体験活動では、そこで働いている人はもちろん、その施設を利用している人からも思いや願いを聞くことができた。また、ふだんは見ることのできない部屋を案内してもらったり、実際に道具を操作させてもらったりと、貴重な体験をすることもできた。児童は、体験活動やインタビューを通して、その人の取組や思いなどを更に知ることができ、地域の人々のふるさとを愛する思いに気付き、地域の人に親しみや愛着をもつことができた。また、地域の方が、自分たちの質問に優しく答えてくれたことで、満足感を感じることができた。



#### 【いろいろな人の思いを更に詳しく知ることができた2回目の体験活動】

2年生は、仲よくなった地域の人を友達に紹介したいという気持ちが芽生え、地域の人を招待して発表会を開いた。班ごとに、探検先の「すてきポイント」を劇や新聞を使って発表した。発表会では、自分の聞きたいことを質問したり、感想を伝えたりすることができた。また、質問に答える児童は、たくさんの質問に答えようと、資料を見直したり、友達と相談したりしながら一つ一つの質問に丁寧に答えようとしていた。一人一人が満足感を感じる発表会となった。

発表後の全体での振り返りでは、「〇〇へ行ったことがないから行ってみたい」「弓削にはすごい人がいっぱいいる」と、他の班が紹介した人たちのことも含め、地域の方の優しさに気付きが多く見られた。さらに、放課後や休みの日に、友達と一緒に仲よくなった施設の人に会いに行く児童も見られるなど地域の人と積極的に関わろうとするきっかけにもなった。

地域の人とのコミュニケーションを楽しみ、地域の人を好きになる活動が、授業の枠を越えて広がっている。



#### 【体験学習発表会】

### ウ 3年生「弓削の自然となかよくなろう」での実践（総合的な学習の時間）

3年生は、弓削の特産品を調べることを通して、自然の豊かさを実感できる学習を進めている。

弓削の特産品の一つに「弓削のり」がある。愛媛産のりの約8割を占めている（平成29年度漁協資料）弓削のりは、弓削島の東の海域を中心に育てられ、島内の加工工場で生産されている。3年生は毎年、その加工工場と養殖場を見学し、地元が誇る特産品への理解を深め、そこで働く人の思いを感じている。

加工工場では、乾燥させたのりがいくつもの機械を使って製品化される工程を見学した。自分たちがいつも食べている弓削のりになっていくところを興味津々で見学した。また、高台からのりの摘み取り作業を見学し、仕事の様子を学んだ。

そして、採れたての生のりの、ふにふにした感触を楽しんだり、できたてののりとストーブの上であぶったのりを食べ比べ、味や色の違いに驚いたりした。普段からよく食べている「弓削のり」だが、実際に作っているところを見たり、作っている人から秘密を聞いたりするなどより詳しく知ることによって、愛着心が湧き、人に知らせたい、自慢したいという気持ちが芽生えた。



【「弓削のり」の工場見学】

のり工場見学後には、全校児童にのりの土産が届き、3年生が得意そうにのりのことを話していた。地域のことをより知ることによって、ふるさとのよさを再認識し、身近な人に広めたいという思いを高めることができた。

また、身近な自然の恵みを生かし、暮らしを豊かにする工夫も地域の方から学んでいる。

その一つが、学校周辺で行っている「摘み菜」の体験活動である。「摘み菜」の活動に大変詳しい地域の方をゲストティーチャーとしてお迎えし、身近にありながら忘れかけている植物を再発見し、観察したり名前を覚えたりしながら、弓削の自然と親しんでいる。身近にあるいろいろな植物の名前を学んだ3年生は、その植物を使ってのおやつ作りを楽しんだ。

また、学校すぐそばの海岸でワカメやヒジキを採る活動も行っている。いろいろな海藻の名前を教えていただきながら、熱心に採集した。採集した海藻は、すぐに家庭科室で調理して他学年にも配りおいしくいただいた。また、この調理した海藻は、他学年に配る。低学年は、「こりこりしておいしい」「ぼくたちも採りたい」と言いながら、高学年は、自分が採った時のことを思い出しながら食べている。




【「摘み菜」の採集と、摘み菜で作ったお菓子】



【海藻採りと調理】

**わかめとりで大発見！！**  
 びっくり、発見、ベスト3 名前

1	わかめをゆでる時、 たった5秒で(0秒) やわらかくなること がびっくりしました。 そしておなべに入れ るとすぐに緑色！		
2	わかめはひじきより もいっはいなくて、 ところどころにあ ることが分かりま した。よそうはいば いあるのかと思いました。		
3	タレの中に、わか めがはいはい 中に入っていると もびっくりしまし		

感想おもしろいけどおいしかったです。  
 小さいわかめは5秒で大きいわかめは10秒で  
 ひじきよりもゆでるのがはわりなと  
 思いました。ひじきのちがいは考えながら  
 活動のすべりができてきたわ。

【学習の記録】

## エ 4年生「弓削の達人について調べよう」での実践（総合的な学習の時間）

4年生は、地域で暮らす人々の知恵や技、生き方について学ぶ活動を行っている。いろいろな面で、自分のよさを生かし、工夫をしながら生き生きと暮らしている方々を「達人」として、自宅や職場を訪問したり、学校に来ていただいたりしながら、学習を進めている。

これまで、「藻塩作りの達人」「味噌造りの達人」「おもてなしの達人」「木工細工の達人」「健康な暮らしづくりの達人」など、多くの達人に出会うことで、弓削の歴史や自然を生かして生活してきた先人の知恵を学ぶことができた。

弓削の達人に話を聞き、教わったことや調べたことは、達人マップに表したり、新聞にまとめたりしている。また、達人たちの生き方や思いに触れることで、自分自身



## オ 5年生「弓削の環境を考えよう」での実践（総合的な学習の時間）

5年生の総合的な学習では、「環境」をテーマの一つに取り上げている。弓削の環境について知り、美しい環境を守るために、どのようなことができるのか、何をしなければいけないのかなどを考え、実行している。

身近な海についての学びでは、「弓削の海って本当にきれいなのかな？」という課題をもつことから学習を始めた。

まず、児童が家の近くの海水を採ってきて水質検査を行った。検査に必要な器具や薬品は、弓削商船高等専門学校(以下「弓削商船高専」)から借りた。また、専門的な知識をもつ弓削商船高専の教員を講師として招き、詳しく説明をしていただいた。



【弓削商船高専から講師を招いての水質検査】

水質検査より、「弓削の海はきれいだ」ということが実証された。

しかし、きれいな海は、他の生き物や海藻にとっては、栄養のない、よくない海であることも知った。そこから、「山と関連があるのかも」「漁獲量に影響はないのか」「マイクロプラスチックを調べたい」など児童の考えが広がり、ふるさとの環境問題を身近な問題と捉え、課題をもって調べていくことができた。

漁協の方から「海的环境と漁獲量」について話を聞いたり、「弓削野鳥の会」の方から「魚介類や海辺の環境と渡り鳥の関係」について学んだり、いろいろな面から環境について学習活動を進めた。



【野鳥の会との観察活動】

### 調べた感想

- ・海と山はつながっていた。栄養のある海にするには、山も大切にしていきたい。
- ・漁業組合の人から話を聞いて、弓削周辺の魚が京都などに運ばれているのに驚いた。昔と比べると今は漁獲量が減り、獲れる魚の種類も違ってきているのは、海水温が影響しているのかもしれないと思った。
- ・野鳥の会の人に教えてもらおうと弓削には多くの渡り鳥が来ていることが分かった。弓削だけの環境について考えてはいけないと思う。



また、環境について学んだことを全校児童や保護者に向けて発表したり、海岸の清掃活動をしたりと、環境についての意識の高まりとともに、環境を守るための活動につながっている。そして、もっと地域の方に環境を守ることの大切さを知ってもらう方法はないかと考え、「テレビCMで発信しよう」という意見になった。

CMの作成は、グループに分かれて行った。アニメーションや字幕など、それぞれの班が工夫して、海の環境を守ることを伝えるCMを作成した。作成中には、弓削商船高専生が、5年生の考えを現実にしていくために具体的なアドバイスをしてくれた。完成したCM「弓削の海を守ろう」は、上島町ケーブルテレビの協力を得て放送された。



【弓削商船高専生と一緒にCM製作会議】

### CM製作に関する感想

- ・学生さんと相談しながら作ると、アイデアがどんどん出てきて、ためになった。ぼくが最初に考え想像していた以上によいものになったのでうれしかった。
- ・リモート会議で、描いた絵を動かせることが分かった。自分が考えたCMがテレビに流れ、とてもうれしかった。
- ・学んだことが、テレビを通してみんなに伝わってうれしい。

近隣の学校、地域と連携することで、より専門的な内容を教わることができ、児童の深い学びにつながった。また、児童の願いを実現し、一人一人が満足できる活動にもなった。



【CM製作の様子とCMの一場面】

## カ 6年生「弓削の未来を考えよう」の実践（総合的な学習の時間）

6年生は、「弓削の未来を考えよう」を学年テーマとして、地域の歴史や自然、産業や文化、暮らしなどの観点から、一人一人が課題をもって調査・探求活動を進めている。地域コーディネーターの協力も得ながら、前学年までの学習を生かして、地域の方にインタビューしたり、施設を見学したり、文献を紹介してもらったりしながら、個人やグループで課題を解決している。

地域の方のお話を聞く活動は、訪問して行くことを基本としているが、感染症対策や時間等の関係で直接会うことが叶わない場合には、ICT機器を用いてリモート取材を行った。取材や調査を通して、自分たちが参加していた行事や利用している施設、身近にあるいろいろなもの・ことに対して詳しく知ることができた喜び、新しい知識が加わった喜びなどを感じながら、生き生きと学習に取り組んでいる。



### 【訪問してお話を伺ったり、リモートで取材したりしながら、学びを進める】

調べて分かったことは、文章に図表や写真などを加えて分かりやすくまとめ、学習発表会や集会で発表している。さらに、ウェブ百科事典「かみじま事典」に掲載したり、上島町内の島を巡りながら、自分たちの島の魅力を他校の6年生に伝えたりしている。

この「かみじま事典」作りは、平成29年度から上島町の島おこしの一つとして始まったもので、上島町内4校の小学校6年生が取り組んでいる。テーマ設定から原稿作成まで、地域コーディネーターの協力を得ながら行っており、取材の仕方や原稿の校正などについて、専門家からのアドバイスを受けることができる。完成した原稿を「かみじま事典」に掲載すると、インターネットを通じて、自分たちの作成したものが多くの人に見られることとなり、自信や達成感につながっている。



【コーディネーターとの事典づくり】

地域の人に取材を重ね、地域の人からふるさとについて学ぶこれらの学習は、ふるさとのよさを再発見し、ふるさとの未来について考える学習になっている。さらに、親しくなった取材先の方を学校に招いてお礼の会を開いたり、米寿の祝いの手紙を届けたりするなど、今まで交流のなかった地域の方とも触れ合うことができた。



【取材先の方と活動を振り返る感謝会】



【他校の6年生へ調べたことを発表】

### 感想

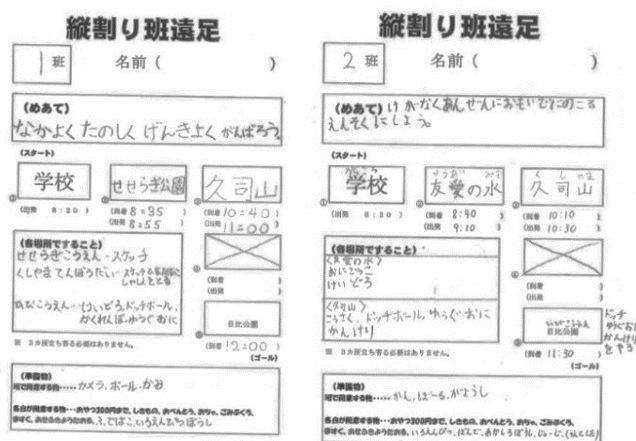
- ・昔の弓削の人は、自然からの恵みを生かして生活していた。今は、生活が便利になったが、昔の人の知識や技術を知ることができてよかった。これからの生活に生かしていきたい。
- ・秋祭りが好きで、前から興味のある神社を調べた。月例祭に参加し、逆羅針盤が貴重な物だと知り、ますます神社が好きになった。文化、史跡などたくさんの人の思いがあって作られ、今も残っていることが分かった。
- ・自分が調べた宿泊施設は、弓削の自然を感じながら、人と人がつながる場所だと感じた。
- ・いろいろ話を聞いて、何度も原稿を見直して頑張ったことが、ホームページに載ってうれしかった。取材した地域の方と一緒に見た。喜んでくれてよかった。もっとたくさんの人に上島のよさを知ってほしいと思う。

## (2) 異年齢集団の活動の工夫

本校では、全校児童を五つの縦割り班に分け、1年間を通して様々な活動に取り組んでいる。異年齢集団の中で互いに関わり合うことで、思いやり、協力、自主性、リーダー性などを育てている。児童は、他の学年に認められることで、自分のよさに気付いたり、達成感を感じたりすることができた。異年齢集団での活動を工夫し、他に認められる経験を繰り返すことは、仲間と共に自己肯定感を高めるよい機会となっている。

### ア 縦割り班活動「春の島内遠足」

春の遠足は、「全校児童がそろって日比公園で昼食をとる。そのため、お昼までには日比公園に集まる」ということを全体の約束として決め、それまでの過ごし方は各班で計画するようにしている。班ごとの話し合いでは、6年生を中心に、行き先や班遊びなどを決める。1年生から6年生まで、全員が楽しく過ごせるように、山に登る、砂浜に絵を描く、磯で遊ぶなど、班ごとにコースや活動内容をよく考えて意見を交換した。



【班ごとの話し合いと遠足計画書】



【海へ、山へ。各班ごとで楽しく活動】

### 縦割り班遠足の感想

- ・遠足だから、みんなでけがなく楽しめたかった。みんなが楽しんでいるか心配だったけど、ぼくが考えていた2倍くらい楽しんでくれて、「またやりたい」と、言ってくれた。すごくうれしかった。6年生として、とてもいい気持ちで終わった。
- ・学校では低学年とあまり遊ばないけど、今日は、ボールを譲った。「ありがとう」と言ってくれてうれしかった。来年は、もっと下の学年と関わって6年生のように働けるようになりたい。
- ・前にいた1年生が滑りそうになったので慌てて支えた。けがをしなくてよかった。わたしは人見知りと同じ人とばかり遊んでいたけど、自分からもっと話し掛けようと思った。
- ・みんなで山に登って楽しかった。景色がきれいだった。やっぱり上島はいいなと思った。道路にごみがあったので、きれいにしたいと思ってごみを拾った。
- ・みんなへとへとで海に着いたら、海がキラキラしてきれいだった。そこで生き物探しをしたら1年生がとても喜んでくれた。
- ・去年の6年生がクモの巣を取りながら山登りをしていたのを思い出してぼくもした。みんながけがなく、「楽しい」と言ってくれて班長として責任を果たしたと思った。

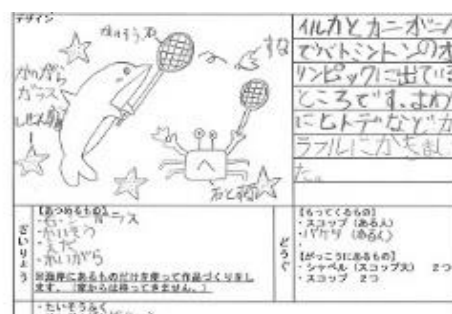
### イ 縦割り班活動「砂浜集会」

秋には、学校近くの砂浜に大きな絵を描く「砂浜集会」を開催している。砂浜がすぐ近くにある本校ならではの活動である。潮の干満の時間を確かめて日程を定めることはもちろん、潮が満ちてくるまでに完成させること、翌日には潮の力によって元の砂浜に戻ってしまうことなど、自然（海）の力を感じる活動でもある。

集会の約1週間前に、各班で、事前に描く絵や役割分担、準備物などを話し合った。6年生が中心となり、みんなの意見を取り入れながら作品製作の計画を立てた。当日は6年生がリードしながら、石や貝殻、海藻など海岸にある物を使って協力しながら絵を描いた。大きな作品のため、防波堤の上から見ながら作業の指示をする係、砂浜に絵を描く係、海藻や小石を集める係など、いろいろな担当を作り、みんなで協力しながら作品を作った。作品作りを通して、みんなの絆が強くなっていくのを感じた。



【班での話し合い】



【考えた図案】



【「砂浜集会」の開会式】



【砂浜において製作開始】



【みんなで協力しながらの製作活動】



【砂浜に完成した巨大なアート】

全ての班の製作が終わった後に観賞タイムを設け、防波堤の上から自分たちの班の作品はもちろん、他の班の作品もじっくり鑑賞する。各班ごとの感想発表も砂浜で行う。潮騒に負けないように、一人一人が大きな声で自分の思いを発表する。他者へしっかりと伝えるために、場に応じた声を出す必要性を意識することにもつながっている。



### 【感想発表】

#### 砂浜集会の感想

- ・ 6年生が「ありがとう」と言ってくれた。役に立ててうれしかった。みんなで力を合わせて大きな絵が描けてすごかった。
- ・ 6年生が、素早く穴をほっていたのがすごかった。6年生みたいになりたいな。
- ・ 6年生がといろいろ教えてくれた。バケツいっぱい赤い石を集めて運んだ。重たいけど頑張った。「いい絵ができたね」と言われてうれしかった。絵を見るといい気持ちになった。
- ・ 海藻が見付からなかったもので、ちょっと遠くまで行って取ってきたら、「いっぱい取って来てくれたね」と言われてうれしかった。上から絵を見たら緑がきれいだった。みんなと協力して仲よくなれた。来年も自分の役割を頑張って、みんな楽しく活動したい。

### ウ 委員会が企画・運営する異年齢集団活動

各委員会が、みんなが楽しめるイベントを企画し、昼休みの時間などを利用して取り組んでいる。保健・体育委員は、スポーツを学年間で競ったり、一緒に楽しんだりできる「チャレンジ王国」を企画している。運営委員会は、特技のある児童を募集し、「じまん大会」を実施している。「じまん大会」では、毎年、多くの児童が参加し、昨年度も5日間に渡って行われた。歌、一輪車、書道などそれぞれが、みんなの前で自分の特技なことを工夫しながら発表し、互いのよさを認め合う場となっている。



【ドラム演奏と歌】



【折り紙】



【算数マジック】



【書道パフォーマンス】



【参加者の感想発表】

## エ 学年交流

各学年で、互いに高め合う場や自主的な支え合いの場になるよう、学年交流の場を設けている。

その活動の場の一つが、「カラフル水族館」である。本校の渡り廊下にある「カラフル水族館」は、全校児童が描いた魚や海藻の特殊な絵をガラス窓に貼り付けることによって、令和元年の夏に作られた。



【全校児童による「カラフル水族館」製作】

この水族館に泳ぐ魚をこれからも増やしていこうと、6年生と1年生と一緒に魚を描き、魚や海藻などを加えていくようにしている。6年生は、1年生にカラフル水族館のことを説明し、製作に取りかかる。6年生は、自分の卒業記念の一つとして作品作りを行ったり、1年生の製作の手伝いをしたりしている。1年生は、6年生に教えてもらいながら作品製作を楽しんでいる。



【1年生と6年生で「カラフル水族館」製作】

自分たちが作った魚を、水族館に加え終えた1年生と6年生は、満足感にあふれた笑顔で、完成記念写真を撮影した。



低学年と高学年の交流は、タブレット端末を使った学習の場でも行なっている。

令和3年度から1人1台のタブレット端末を使った学習が行われるようになったが、早々に活用の仕方を理解し、学習のいろいろな場面で活用をする機会の多い高学年に対し、低学年の児童は、操作に戸惑うことがある。そこで、操作に迷っている低学年の児童に対して、高学年が一つ一つ丁寧に使い方を説明する時間をとった。

分かりやすく操作方法を伝える高学年は、低学年の児童にとって、とても頼もしい存在であり、その信頼感は、その他の活動においてもしっかりとしたものとなっていく。また、この活動は、高学年の児童にとって、自己有用感や充実感を感じる一つの場面である。自分に自信をもって活動に取り組む力を育む活動の一つである。

低学年、中学年、高学年での交流の場も設定し活動をしている。

5年生と6年生は、「百人一首」の対戦を定期的に行っている。

休み時間などを使って学年ごとに練習をしている5年生と6年生による対戦は、日頃の仲のよさは関係なしの真剣勝負。学級担任が読み札を読み始めた瞬間に手が動くほどまでに上達した児童の対戦は、見ている方も緊張する。

対戦後は、またいつもの仲よしの笑顔にもどり、お互いの上達を励まし合っている。

交流活動が学習への意欲を支え、高めているといえよう。



【タブレット操作を教える6年生】



【5年生と6年生の百人一首対決】